

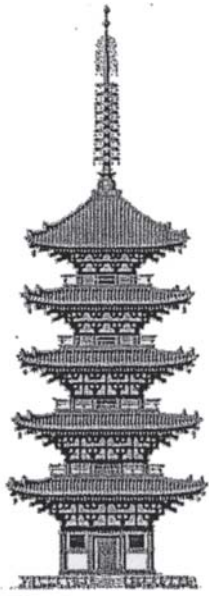
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。今日は**ご祥当 弘法大師の年命日**。ご祥当が来るといよいよ春本番ですね。さて、**仏教伝来**をお伝えしている今年のかかわら版。今月は、**スリランカ、東南アジア**に伝わった仏教です。

★仏教伝来の三つのルート

インドで誕生した仏教は、三つのルートでアジア全域に広がっていききました。

第一は、**南の海路**を経て、スリランカや東南アジアに向かったルート。

第二は、**北の陸路**。ヒマラヤ山脈を越えて、ネパールやチベットに至るルートです。

第三は、**西北の陸路**を経て、ヒンズークシ山脈やカラコルム山脈を越えて、シルクロード、中国に伝わったルート。

今月号では、第一のルートをご紹介します。

★マヒンダとサンガミッター

インドを統一した**アショーカ王**。仏教を広めるために周辺諸国に伝道師を派遣しました。

南の島国である**スリランカ**には、息子の**マヒンダ**と娘の**サンガミッター**が渡り、上座部(小乗)仏教を伝えました。後に**南伝仏教**と呼ばれます。

以後、仏教徒の**シンハラ族**とヒンズー教徒の**タミル人**の間で何世紀も対立が続き、今日に至っていません。

★東南アジアはシークロス

東南アジアにはスリランカ経由で上座部仏教が伝わるとともに、別のルートもありました。

紀元前二世紀頃より、南インドと中国沿海部の交易が始まり、中継地点の東南アジアには様々な文化や宗教が伝わりました。言わば、**海の交差点** Ⅱ **シークロス**です。

ミャンマーでは、上座部仏教だけでなく、大乘仏教、ヒンズー教が混合した信仰が普及。そうした中、九世紀の**アノータール王**が上座部仏教を国教と決めました。

六世紀に創建された**ヤンゴン(ラングーン)**の**シュエダゴンパ**

★アンコールワット

カンボジアのルーツの**クメール朝**は、ヒンズー教と大乘仏教の混合信仰。

九世紀の**インドラ・ヴァルマン一世**の時に首都**アンコールトム**の建設が始まり、都の南に建てられたのが**アンコールワット**。ヒンズー教の神々、大乘仏教の菩薩が入り交じって祀られています。

十四世紀になると**タイのアユタヤ朝**が侵入。一四三二年、クメール朝はついにアンコールトムを放棄して滅亡。これを契機に、タイから上座部仏教が伝わりました。

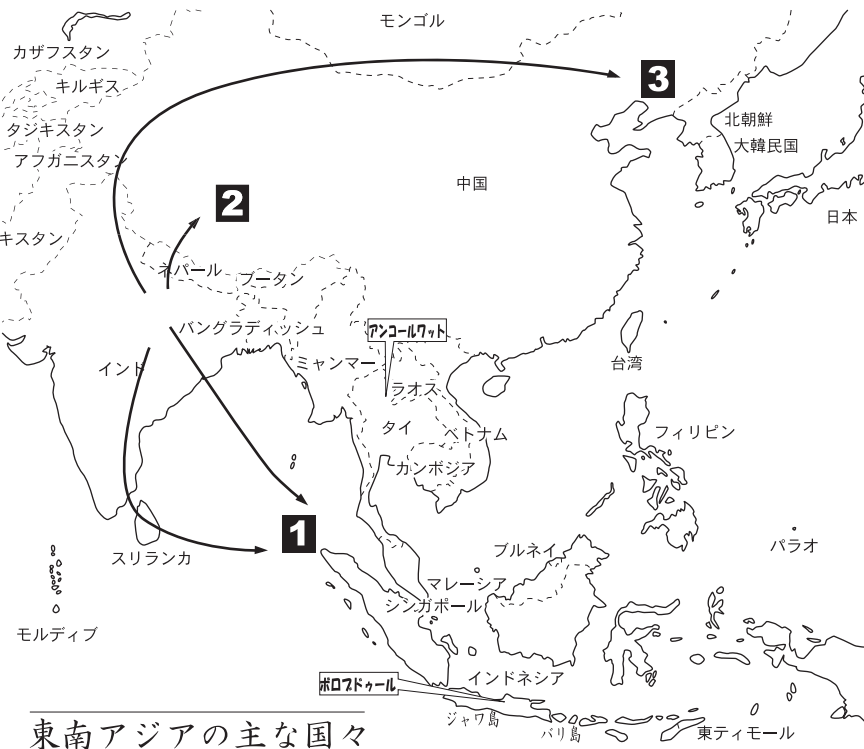
そのタイに上座部仏教が伝わったのは十一世紀であり、**スコタイ朝のラームカムヘン王**が国教としました。

★ポロフドールの仏塔

インドネシアでは、紀元前後からジャワ島、スマトラ島を中心に普及。**ヒンズー文化**と言われるほどヒンズー教の影響が強く、その代表が**ポロフドールの仏塔**。都には千人以上の僧が修行する寺院もあり、中国からインドに渡った**義浄(ぎじょう)**が行き帰りました。

★次回はチベットのラマ教

来月号は第二の北のルートをお伝えします。とりわけ、**チベット**では仏教が**ラマ教**と呼ばれるようになります。乞うご期待。



東南アジアの主な国々



に滞在。**南海寄帰内法伝(なんかいきまきないほうでん)**という本を著しました。

十四世紀になると、ジャワ島にイスラム教が台頭。仏教徒はバリ島に逃れ、**バリヒンズー文化**に進化しました。